



## 収穫繁忙期の労働力確保に農福連携を活用 需要が高まる特産品の生産規模拡大を目指す



JAたじまが重点品目として生産振興に力を入れている在来種「山椒」朝倉さん」と、関西最大級の出荷量を誇る「たじまピーマン」。どちらも収穫には人手が必要で、山椒は収穫が5月中旬～6月上旬の短期間に集中、ピーマンは6月～11月の間に日々収穫作業が発生するなど、他の農作物も栽培する農家にとっては農作業の時期が重なるため、労働力の確保に悩みを抱えていました。

こうした課題を解決するためJAたじまでは農福連携による収穫作業の省力化に着目。兵庫県朝来農林振興事務所と連携し2024年に朝来市内の福祉

事業所に協力を依頼、5月に山椒の収穫、9月にピーマンの収穫と選別の実証事業を実施しました。山椒は支援員と利用者合わせて1日あたり約10人（4日間）、ピーマンは同1日あたり約7～9人（6日間）に従事。いずれも作業時間は1日4時間程度で実山椒は約65kg、ピーマンは約480kgの出来高となり、作業精度と作業量ともに生産者も納得できる成果を得ました。但馬の特産品として需要が高まる中、JAたじまでは「増産の意欲があるのに規模拡大に踏み切れない」生産者の労働力支援につながる手段として、農福連携を拡充していく予定です。

### 作業上の工夫点や報酬について



山椒では、収穫かごを自作したり、手順をわかりやすく動画にするなど、道具の準備や作業方法などを生産者と支援員双方でしっかりと確認してから実施しました。ピーマンでは収穫目安を表す6cmの棒や規格外となる色や虫食い写真なども用意しました。報酬は、初心者を想定した1人1時間あたりの収穫量とJAたじまの農家精算単価を参考に、山椒は1kgあたり、ピーマンは10kgあたりの単価を設定し、出来高払いとしています。



(左から) 営農生産部特産課の木谷和喜さん  
営農企画課の石井淳さん

(2025年1月取材)